

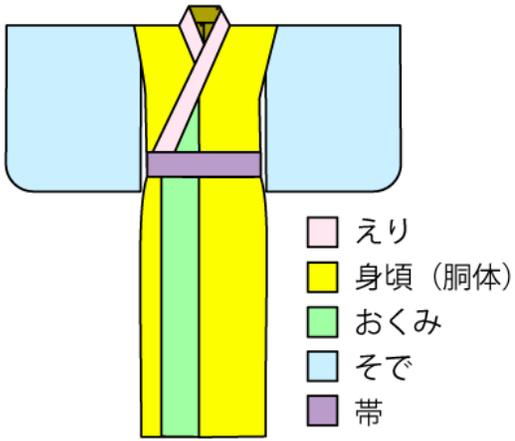
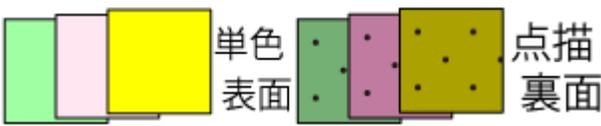
## 2402 ドール男性用浴衣の作り方

### いるもの

- 表布 丈や作りたいそでによって変わるので1/10で計算してください
- 生地にあった色の糸 シャツペスパンなどの60～90番 糸は番号が大きくなるほど細くなります。
- ほつれ止め液 ミシンでほつれ止めをするときは不要
- ラックテープ(あると効率アップ+仕上がりも良くなるアイロンでつく布用の両面テープ)
- スプレー洗濯糊 浴衣特有の張りは糊付けされているためパリツとしています  
柔らかい張りのある生地を使いたい場合、完成後に表面のみ洗濯のりをつけると張りが出ます。  
ただしドールの素材によって影響が出る可能性があるので、気になる方は避けてください。

### オススメの生地

### シーチング、ブロード

 <p>えり 身頃 (胴体) おくみ そで 帯</p>	<p>あくまで洋裁方式で作る浴衣です。 男装用の着物にはおはしよりはがありません。 指定がなければ縫い代は1cmです。</p> <p>生地の色について</p>  <p>単色 表面 点描 裏面</p> <p>点がない方が表面、点のある方が裏です。</p>
	<p>必ず縫う前に型紙をテープで組み立ててみて 説明書の理解度が一気に上がります。</p> <p>パズルと思ってテープで組み立ててみて。</p> <p>たった3～20ピース程度のパズルなんて簡単だと思いませんか？</p> <p>洋裁が、難しく感じるのは理解できないのではなく先が想像できないからです。</p>



布の印のつけ方や  
接着芯の貼り方は  
縫う前の下準備で  
詳しく説明しているよ  
まだ見たことがない  
人は先に見てね!

→ 縫う前の下準備

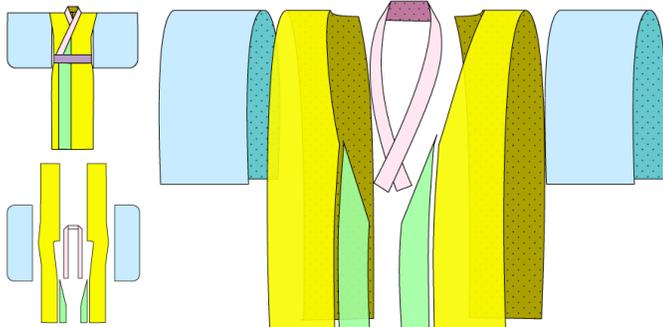
裁断した全てのパーツの端をほつれ止めをする。

型紙を切る前に線のう上にピケ(ほつれ止め液)を塗る。

ピケが乾いてから切ると型崩れせず楽です。



ミシンでほつれ止めする場合は身頃(胴体)の赤線の所はえりて包むので不要です。



着物は前と後ろがつながっていて、肩の所で折って作る  
ので長いんですよ。

ほつれ止め

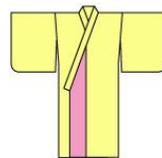
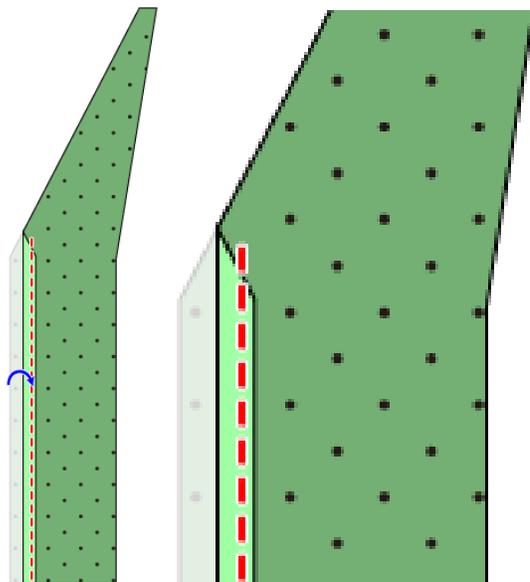


洋服生地の場合張りがないので、仕上がりが貧相になりやすい。

糊付けすると張りが出る。

ただしドールの素材によって影響が出る可能性がある  
ので、気になる方は避けてください。

スプレータイプを使う場合は最後の仕上げに表面に吹き  
かけてアイロンをかける。



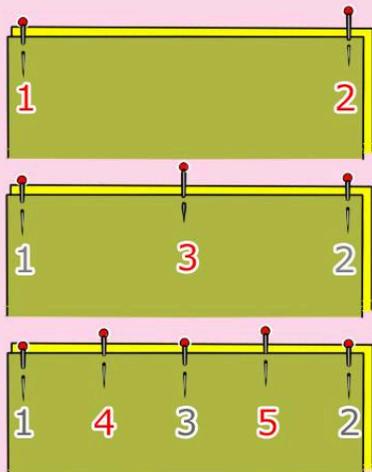
おくみの片方の縫い代を裏に7mm折る。

縫い目が出るのが嫌な方は布用ボンドか、布用両面接着  
テープを使うと簡単です。

まっすぐ縫うコツ



先に両端を固定、次に等分した中心に刺し、更に待ち針を刺した区間を等分してピンを打つとズレにくいよ



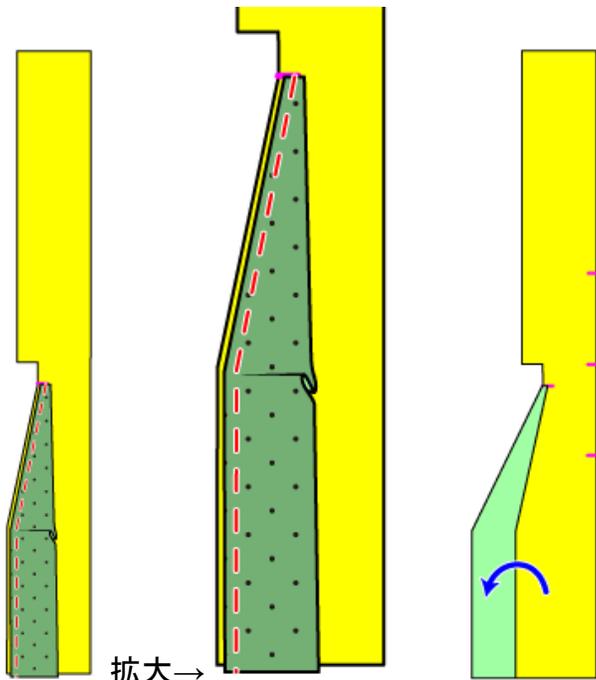
生地が長くなる程、均等に合わせるつもりでもズレてくる場合があるので(特に摩擦の高い生地などにおきやすい)

待ち針を刺す時は端から順に刺すとずれやすいので、両端を先に固定する。

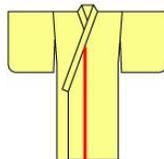
次に中央か、印のある所を固定する。

その次に、先にとめた待ち針の中間を止めていくとズレが起きにくくなります。

待ち針の刺し方



拡大→



中表

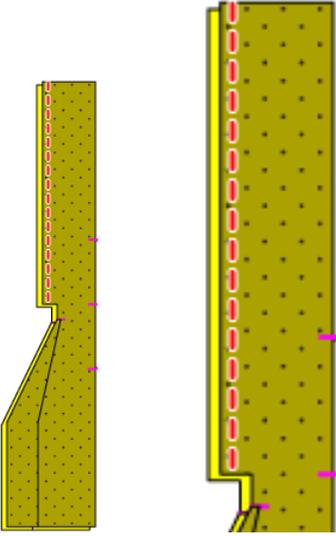
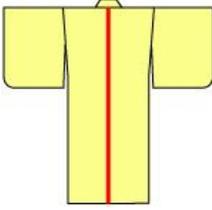
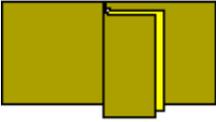
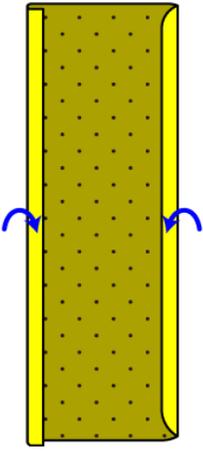
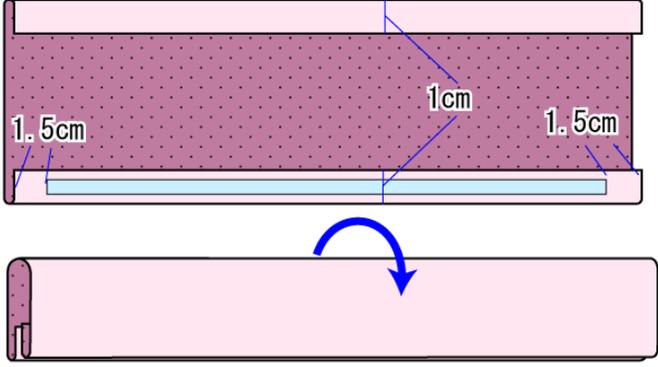
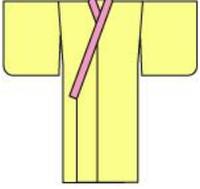
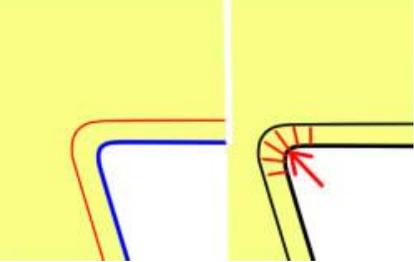


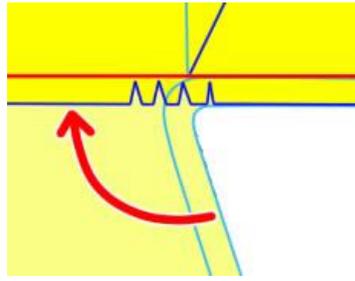
おくみ(前中心のパーツ)と前身頃(胴体)を表側が内側になるように重ねる。

7mm幅で縫う。

おくみを中央側に折りアイロンをかける。

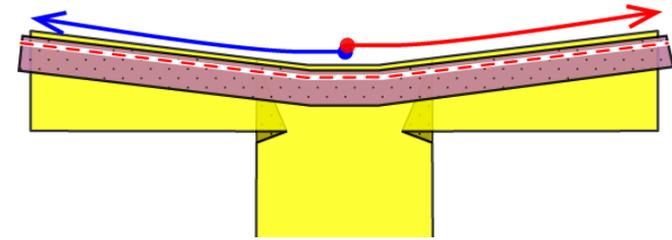
縫い代はおくみ側に折る。

	<p>身頃(胴体)を表側同士が内側になるように重ねる。</p> <p>後の中心を7mmの幅で縫う。</p> <p>アイロンで背中心の縫い代を両方とも表から見て左に折る。</p> <p>一方方向に縫い代を折ることを、おさいほうの用語で倒すという。</p>  
	<p>そでの両端の縫い代を7mm裏に折り目をつける。</p>
	<p>縫い代の折り方</p>   <p>えりの両端の縫い代をアイロンで裏へ7mm折り、さらにそれを真半分に折る。 ラックテープがあれば、折った縫い代の片方の上に貼る。剥離紙はまだはがさない。</p>
	<p>えりの肩のカーブの縫い代に4~5mm程度の切り込みを入れる。</p>

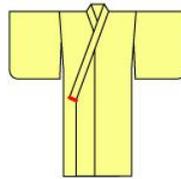
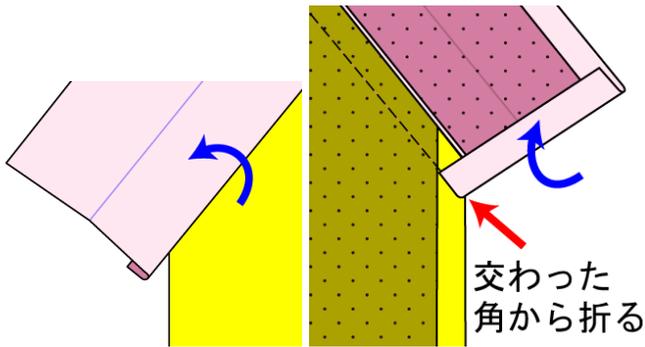


表同士が内側になるように身頃(胴体部分)にえりを重ねる。

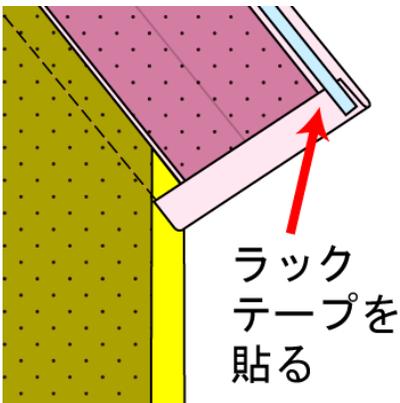
襟(えり)の中心と、身頃の後ろの中心を合わせてから左右を縫っていくと綺麗につけやすい。  
特に角の所だけが縫いにくいので、ミシンで縫っている方も首周りの所は手縫いすると作りやすいです。(そもそも着物は昔から手縫いで作られていたものです)



えり先はつける縫い代分7mmはみ出すようにつける。

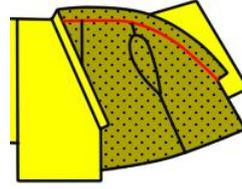
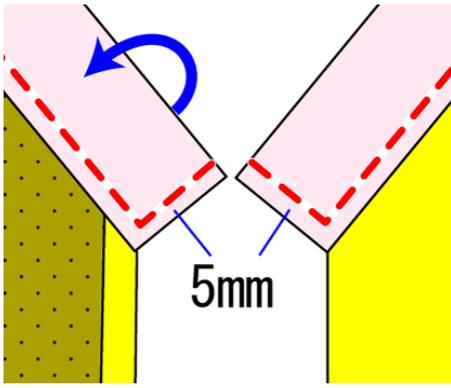


えりの先の縫い代を裏へ折る。



ラックテープを貼る

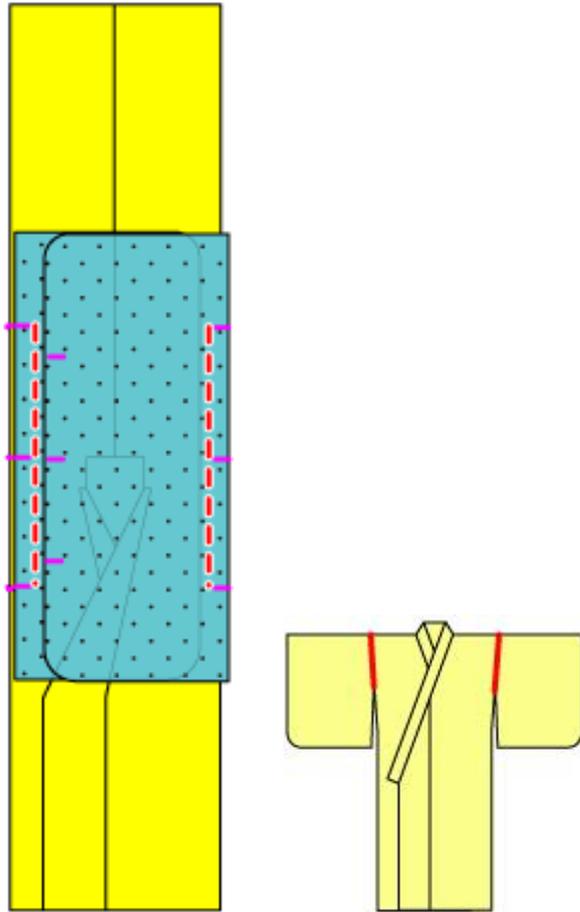
ラックテープを貼った場合剥離紙をはがす。。



えりを表が見えるようにひっくり返して形を整える。

ラックテープを貼ったときは、固定してアイロンをかける。

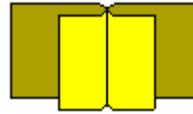
ラックテープがない場合は待ち針で開かないようにとめてから、ミシンで端から5mmの所を縫う。



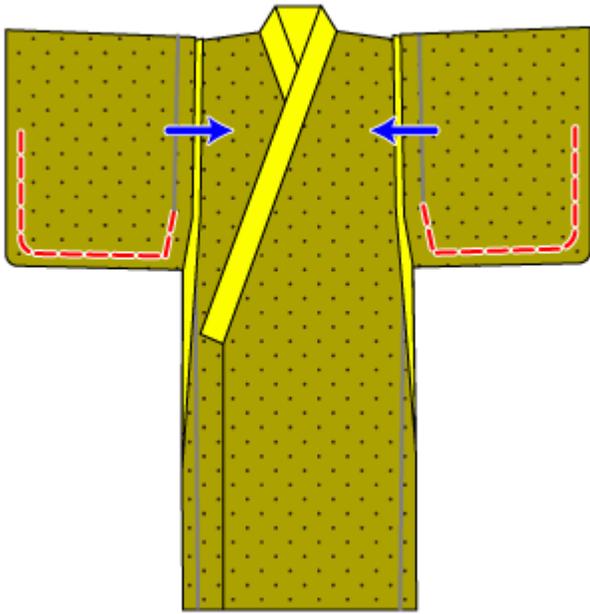
身頃(胴体)と袖(そで)を表側同士が内側になるように重ねる。

肩と、そで山の印を合わせて、印から印の間を7mm幅で縫う。

縫い代は左右に折る。

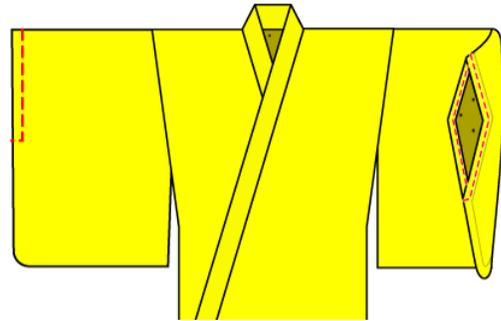


おさいほうの用語で縫い代を左右に広げる事を割るといいます。

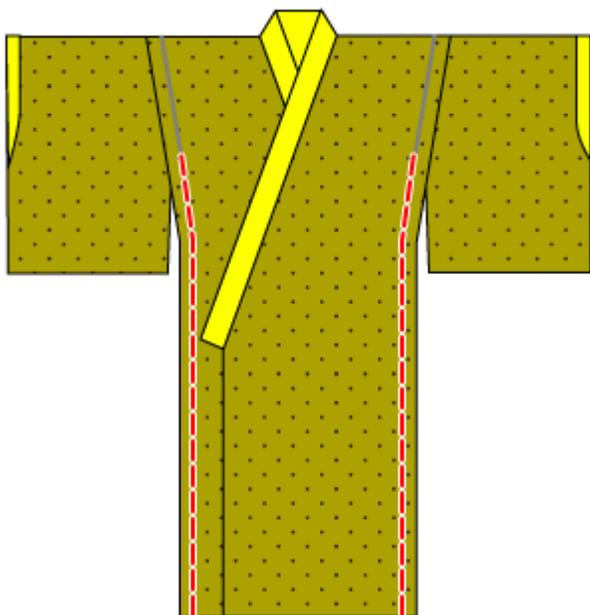


そで口の印から、身頃(胴体)と縫い付けた縫い目ギリギリまで7mmの幅で縫う。

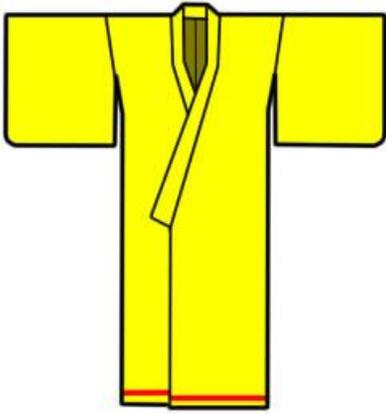
縫い代は後(背中側)へアイロンで折る。



そで口の縫い代を7mm内側へ折る  
手縫いで縫う、もしくは布用ボンドやラッテープで固定する。



そでの付け根ギリギリまで脇を7mmの幅で縫う。



すそを7mm裏に折る。  
5mmの所を縫うか、布用ボンドか熱接着の両面テープ  
を使ってとめる。